

## 事業概要書

事業名	カーロでスタディ				
開始日	2021.05.01	終了日	2022.03.31	日数	335 日
団体名 (カウンターパート)	公益財団法人日本 YWCA YWCA 活動スペース「カーロふくしま」				
担当者名	佐藤純子	スタッフ人数	11 人		

事業費総額 (税込)	750,000 円
CF 事業枠	600,000 円
その他資金	150,000 円

事業目的	<p>新型コロナウイルス禍における、小中学校の臨時休校措置などによる学習やコミュニケーションへの影響、そして、アルバイトや仕送りの減少によって生じている大学生の学費や生活費への影響の課題解決及び新しいコミュニケーションの場の創設。</p>
事業全体の概要	<p>●<u>カーロふくしまとは</u></p> <p>YWCA 活動スペース「カーロふくしま」は、日本 YWCA の東日本大震災被災者支援の拠点。2011 年に生まれた子どもが成人するまでの 20 年間 (=7300 日)、ふくしまの女性や子どもの心身の安全安心を目的に、</p> <p>(1) 低線量地域に滞在し、心身のリフレッシュを行う「リフレッシュ (保養) プログラム」</p> <p>(2) 一軒家やアパートを提供し、家族で日常のように生活する家族単位型保養「セカンドハウスプログラム」</p> <p>(3) 被災地域の福島市にて、ワークショップやおはなし会 (講座) などの開催や、女性と子どもたちが気軽に集えるセーフスペースである「カーロふくしま」の 3 つの柱を中心に活動を行っている。</p> <p>これらの活動は、被災者と「共に (com)」「20 年 (7300 日)」を歩むことを目標とする地域連携委員会 com7300 チームが担い、また、全国 24 か所にある地域 YWCA と連携し、活動の強化を図っている。福島に拠点を設け、専任の担当職員が常駐することにより、各被災者支援団体とも連携を図り、継続性が高く、当事者のニーズに沿った信頼される支援を行っている。</p> <p>●<u>取り組むべき課題</u></p> <p>2020 年初頭から発生した新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、臨時休校や短縮授業などの措置が長期間に及んでいる。</p> <p>家庭が子どもの学びの場としての比重が高まり、学習指導を親が担う場面も増加するなか、学びの量や質が不均衡となり、保護者の支援の差が学力差となって表面化してい</p>

る。仕事や家庭生活を抱える保護者にとって、子どもの学習への負担が増えるのは、経済的・時間的にも大きなプレッシャーとなる。さらに、常に子どもが在宅状態になり、仕事への影響や自由時間の減少によって、保護者も大きなストレスを抱えることになる。

こうした、家庭環境に左右される自宅学習でのストレス、休校によるコミュニケーションの場の喪失などの課題は、東日本大震災以降、福島と、福島の子どもたちが抱えている多様な課題と相似している。

また、今後コロナ禍での感染予防を念頭に置いた生活様式の中では、感染拡大状況によって、突然の休校・授業短縮・変則登校などの措置が予想され、いつでも安心・安全に学び交流出来るセーフスペースの確保が必要となっている。

また、大学生は、外出自粛や濃厚接触回避の要請によって、家庭教師などのアルバイトの減少、保護者からの仕送りの減額といった、生活費・学習費への影響が出ている。特に教職や子どもの福祉現場を目指す学生にとっては、教育実習の延期や短縮によって、子どもたちと接する機会が著しく減少し、将来への経験の場が失われている。

#### ●新型コロナパートナー事業

小中学生を対象とした学習サポートを行うプログラムを開催し、学びとコミュニケーションの場を提供する。子どもの居場所を提供することによって、保護者が自由な時間を確保でき、ストレスの軽減ともなることを目指す。

講師は地元の大学生に依頼し、アルバイトや仕送りの減少による学費や生活費の影響を鑑み、学ぶ場の継続困難を解消する一助としたい。

#### \*小中学生の募集及び講師の選定方法

- ・小中学生：昨年度は、保養事業の中止を受け、居場所づくりも兼ね実施した YWCA プログラムに参加した子どもへの声かけ、ロコミ、子ども食堂や市内中心部の公共施設にチラシ設置を通じて募集した。今年度は上記に加え、311 受入全国協議会を通じての呼びかけ、プレスリリース、チラシ・ポスター配布を強化し募集する。
- ・講師：教職や福祉職を目指し、且つ家庭教師や学童で就学経験のある学生を前提に、昨年度、講師を務めた福島大学の学生 3 名（本年 3 月に卒業）のネットワークを通じ、同大学の学生を中心に選定する予定。

#### ●期待される効果

- ・コロナ禍における、臨時休校や不規則登校による学習サポートにより、子どもたちの学力のばらつきを防ぎ、学びへの向上心を育む。
- ・また、子どもと大学生講師の多世代交流によって、コロナ禍で減少している、家庭外のコミュニケーションを育む場となる。
- ・子どもを一時的に預かることにより、保護者特に母親に時間の余裕ができ、ストレス解消の一助となる。また、母親同士の交流会を随時開催することにより、互いの情報

	<p>や課題を共有することで、生活に安心を与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加費を低額に設定することにより、家庭の経済的事情による学びへの不均衡を解消する。</li> <li>・大学生に講師を依頼することにより、仕送りの減額やアルバイトの減少などによる生活の介助となる。</li> <li>・また、教育や福祉の道を目指す学生にとっては、実習などで減った子どもたちとの交流実習の場ともなる。</li> </ul>
事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	裨益者 (誰が、何人)
<p>①月に2日 (各日午前・午後開催) 学習支援「カーロでスタディ」を開催し、休校などによる授業の補助、家庭学習で起こる各家庭間の学習環境や学びの質と機会の平衡化を目指す。各回の参加定員はソーシャルディスタンスおよびきめ細かい学習サポートのため5名とする。ただし、感染状況によっては減員も検討する。</p> <p>②年に2回 (夏休み、クリスマスなど) 交流会を開催し、参加者や保護者、講師学生などとの親交を図る。</p> <p>③学習時間を利用し保護者 (特に母親) 対象のお茶会を開催し、母親たちの交流の場を設定することで、コロナ禍での各家庭の子どもたちの状況解決策などの情報共有を行う (年4回開催)</p>	<p>福島市及び近郊在住の小中学生各回定員5名 ×44回=のべ220名。 大学生(講師)各回2名 ×44回=のべ88名</p>